

「韓国教育改革における以友学校の位置」*

井上 育正
 小柳津 久美子
 神保 啓子
 脇田 俊幸

1. はじめに

韓国の以友学校は理想の学校づくりを掲げ、今までにない代案学校づくりに挑戦中である。韓国の高等学校は基本的に公私の差なく、入学先が抽選で決定される平準化政策がとられ、そのため大学受験が激化している。以友学校は、その現状の公教育を変革するため“都心の中の学校づくり”を実現し、学校マネジメントも既存の学校とは異なる道を取っている。そのカリキュラムは進学中心ではなく、進路を考えさせるフィールドを数多く用意している。授業はいかに生徒自らが考えるかを重要視した内容になっている。

今回の調査報告では、韓国教育改革における以友学校の取組みを紹介したい。

2. 以友学校の概要

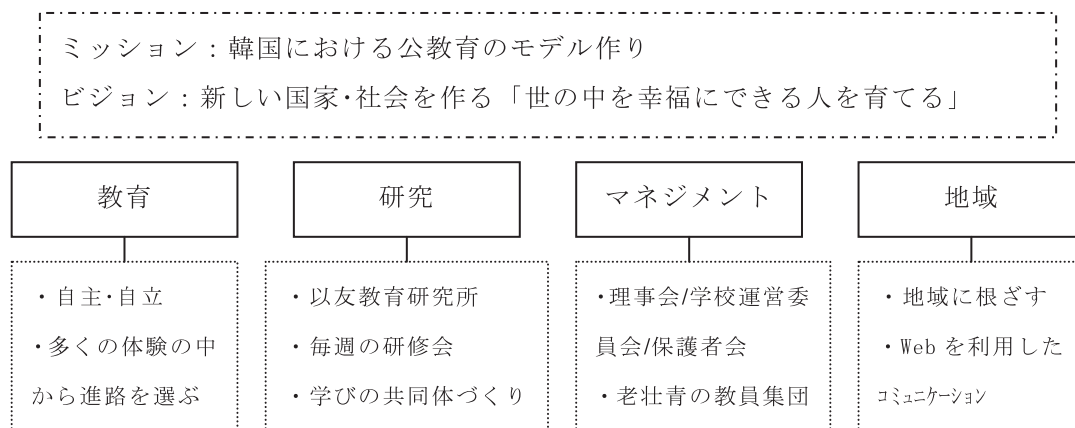
以友学校は韓国京畿道（キョンギドウ）城南市（ソンナムシ）盆唐区（ブンダング）にある、大

きなベッドタウンにも近い丘の上に位置する代案学校（オルタナティブ・スクール）である。1997年に、中等教育で行きたい学校を選択できない進路選択の在り方に疑問を感じた韓国の教育運動家たちが集った。ここから公教育のモデルになるべく新しい学校の設立準備が始まった。ヨーロッパや既存の韓国国内の代案学校を研究・準備を重ね、以友学校は2003年9月に開校した。

2005年3月現在の在校生は中学校185名、高等学校212名の計397名である。教職員は教員44名、職員13名合計57名である。

3. 以友学校の理念 Communication with Human and Nature

今回の調査から、以下のように以友学校の戦略マップづくりを試みた。（抜粋）



*本稿は、日本教育経営学会第47回大会発表要旨集に掲載したものを加筆修正したものである。

4. 以友学校の仕組み マネジメント

以友学校は100名前後の多数の市民によって設立された。また、意志決定は学校運営委員会で行われる。構成メンバーは校長、保護者、教員、地域代表である。教職員の中に、学年ごとの教員チーム（学年団、5人程度）と、職員チームがある。毎週月曜日にチーム代表者会議を実施して意思の疎通を図っている。

構内には以友教育研究所が併設され、以友の教育コンセプトの普及を担っている。将来的にはこの研究所を中心に教職大学院を設置しようとしている。

教職員間で水曜日に「生徒の学びがどのように起きるか」をポイントに研究会を実施している。保護者会も教育支援に当たっている。生徒自治活動も活発である。文化祭や体育祭の企画、生協の運営が生徒に任されている。規則は学年ごとに生徒自らで決定している。

学校全体として、学期ごとに生徒・保護者から、2年ごとに外部から評価を受けている。

5. 以友学校のカリキュラム

カリキュラムは『子どもたちが心の中から力を出すことができる』ことを目標に、講義中心ではなく、子どもの発言を重視した内容となっている。自律的・自己主導的な学びに向かうよう、学級は最大20人の少人数である。学期は4期制をとっている。授業は1コマ90～100分で、ブロック式の授業形態を取っている。韓国の教材は50分

授業を基本につくられているため、100分の授業に合うように修正されている。この1年間は協働学習（学びの共同体づくり）を積極的に推進してきた。農村でのボランティアなど、多様な学習体験や社会参加を積ませている。

OECDによるPISA調査の中で問題にされている批判的な思考力や問題解決能力、意思疎通の力を生徒評価の尺度とすると、非常に顕著な高い結果が現れている。

6. まとめ

学びの共同体の構築へ向かう授業を目指し、協同学習を通じた課題解決に取り組む教育スタイルは難易度が高い。年功序列型から転換し、フラットな組織体制で挑戦してきたマネジメントは試行錯誤の連続であった。以友学校が目指すビジョンを長期戦略にどう位置づけていくか課題を残すものの、その中で真摯に課題に取り組んでいる姿勢から、今後の活躍が期待される。

参考文献

「世界の学校」- 教育制度から学校の日常風景まで - 二宮皓 学事出版 2006年

「韓国の教育自治」(財)自治体国際化協会(ソウル事務所) 2004年

第3回国際人権わいわいゼミナール「韓国における教育改革の最前線 - 以友学校の挑戦 -」報告(1月19日開催) <http://www.hurights.or.jp/event/rpt06/j19.html> (2007.4.17)